

[教育実践]

# 初年次教育における産学連携による 社会人基礎力育成

——星ヶ丘三越デバ地下マップの作成——

水野英雄 *Hideo MIZUNO*

## Abstract

A university freshman studied the department underground in Hoshigaoka Mitsukoshi near the university at an early stage after entering the university and is creating a “department underground map”. We have a goal of announcing the results at the open campus presentation of students, and we are doing our own activities. By clarifying the goal, giving responsibility, and experiencing success, we are fostering fundamental competencies for working persons.

As active learning in the first-year experience, students are developing the fundamental competencies for working persons by PBL (Problem Based Learning).

キーワード：□社会人基礎力 □初年次教育 □産学連携  
□アクティブラーニング □PBL (課題解決型学習)

## 1 | はじめに<sup>1)</sup>

大学全入時代を迎えて、大学で学ぶための方法についての学習である初年次教育の重要性が益々高まっている。「鉄は熱いうちに打て」という言葉があるように、大学生は1年生の入学時点が一番意欲が高く、意欲が高いうちに積極的に取り組ませることでその後の成果が決まると言っても過言ではない。意欲的に取り組めないと学年が進むにつれ「学力逡減の法則」のような状況にすら陥る<sup>2)</sup>。1年生の早い段階に初年次教育として社会人基礎力育成に取り組むことで、4年後の達成度が大きく違ってくる。そのためには目標を明確にして、責任を与えて、成功体験させることが大切である。

そのためのPBL (Problem Based Learning、課題解決型学習) による取組として、大学1年生が入学後の早い段階で大学の近くにある星ヶ丘三越でデバ地下の調査を行い、「デバ地下マップ」を作成している。成果をオープンキャンパスの学生プレゼンテーションで発表するという目標を持つことで学生は様々な工夫を行い、主体的な活動となっている。つい最近まで高校生であった女子大学生の視点で商品の斬新な紹介を行っており、2年次以降の商品開発等の学習につながる発展性のある取組となっている。また、働き方のロールモデルとなる大学の先輩である社員の方の活躍を知るこ

とで、自らのキャリアプランについて考える機会となっている。

## 2 | 初年次教育の意義

大学全入時代を迎えて、大学進学の方法や学習意欲が低い学生でも入学が可能となったことで、学生の意欲や学力が二極化している。大学入学の目的意識が希薄で、大学で学びたいことや将来への希望といった大学入学以前に考えるべき進学動機が定まっていない学生も増加した。そのような学生は明確な目的がないために大学生生活を漫然と過ごしてしまい、具体的な成果を得られないために就職活動で大学で何を学び、取組んできたかを答えることが出来ず、大学卒業の資格を得ても十分に活用することが出来ない。

学習習慣のない学生にとっては大学での学習の方法を学ぶことが、また、意欲のない学生には目的意識を持たせて成果を達成する方法を教えることが求められる。そのため大学生生活の方法を学ぶ初年次教育の重要性が高まっている。

初年次教育では①レポートの書き方や文献や資料の探索方法等のスタディスキルやアカデミックスキル、②クリティカルシンキングや抽象的思考方法、③コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力、を身に付け、高等学校までの受動的な学習から能動的で自律的・自立的な学習への転換を図ることが求められる。また、高等学校までの学習の不足を補うことや、生活習慣等の自己管理能力の育成等の幅広い内容の教育が必要な場合もある。特に、大学1年生にとってこれまでの受動的な学習を能動的で自律的・自立的な学習へ大きく転換することは容易ではなく、学力の高い学生であっても適応できない場合がある。

能動的で自律的・自主的な学習への転換は、一方向的な講義ではなく、アクティブラーニングによる双方向的な、協働的な活動の中で実現され、社会人基礎力の育成にもつながる。

## 3 | 星ヶ丘三越との産学連携によるデパ地下マップの作成

### (1) 現代マネジメント学部における学びの目的

椋山女学園大学現代マネジメント学部は現代社会におけるビジネスの基礎となる経営・経済・法律・政治などの社会科学の基礎を幅広く学習することで企業や社会・経済の仕組みを理解し、産学連携によるプロジェクトや各分野の実務家による講義等によって積極的に社会と関わりながら体験的に学習することによって、即戦力となる実践的なマネジメント力を育成することを目標としている<sup>3)</sup>。就職を意識して企業のマネジメントや商品企画に興味のある学生が入学しており、理論だけでなく実際の現場を体験しながら学習したいという希望を持っている。

## (2) 星ヶ丘三越との産学連携

大学教育は理論的に分析する能力を育成することが中心であるが、大学に入学したばかりの学生にとっては抽象的な思考よりも具体的な事例を用いた方が理解しやすいため、身近なものをテーマに課題を与えてそれを解決することで体験的に学習し、受動的でなく能動的に活動する経験を積ませている。そのための課題として、大学生になったばかりの1年生は高校生に近いことから、オープンキャンパスで大学の魅力を伝える方法を考えさせた。その中で、「大学の近くにある星ヶ丘三越などの商業施設とのコラボができないか」という意見があった。星ヶ丘三越は大学から徒歩5分程の距離にあるデパートで、通学の途中で寄ることができ、アルバイトや就職をする学生もいる。これまでも他学部ではお弁当などの商品企画やファッションショー等の産学連携による取組が行われていた。現代マネジメント学部では、経済や経営の知識を活かした取組として、学生に身近な食品売り場のお店の紹介である「デパ地下マップ」の作成を考えた。

## (3) デパ地下の調査

デパートは都心の繁華街にあるが、星ヶ丘三越は住宅街の中にあるため、日常的に買い物をする食品売り場が非常に充実している。食に関する消費者の関心は高く、デパ地下の食品売り場はマスコミでも注目を集めている。また、経済や経営に関して学習した知識を踏まえて、デパート、スーパーマーケット、コンビニエンスストア等の小売業における業態の違いが顧客や売上、利益にどのように影響するのかを比較し検



星ヶ丘三越の調査（椋山女学園広報課と筆者撮影）

討することもできる。このようにデパ地下の食品売り場は学生にとって身近で扱いやすいテーマである<sup>4)</sup>。

2016年7月12日に現代マネジメント学部の1年生43名が星ヶ丘三越を訪問し、実地調査を行った。学生は店舗の特徴について説明を受けたのちに、①生鮮・グロサリー（食品雑貨・日用品）、②総菜、③菓子・ギフト・レストランの3グループに分かれて店頭での調査を行った。食品の鮮度を保つための工夫や購買意欲を増すための陳列の方法、商品の仕入れや入れ替えのタイミング、接客の方法等について学習した。

普段なかなか見ることのできない調理場等も見学でき、学生は大変熱心に興味を持って調査していた。当日は平日で多くのお客様がいたために、他のお客様に迷惑にならないように誘導パネルを用意して案内して頂き、調査をスムーズに進めることが出来た。

#### (4) デパ地下マップの作成

調査で学んだことを踏まえて、「星ヶ丘三越デパ地下マップ」(図1, 図2)を作成した。A4サイズのチラシと展示用のパネルを作成し、チラシはオープンキャンパスの来場者に配布した。星ヶ丘三越のデパ地下が他とは違うことを地元の人以外に知ってもらいたい、子供からお年寄りまで幅広い方々にパッと見てわかるようなデパ地下マップにしたいと考え、写真を多く使い、食レポも取り入れた。特にオープンキャンパスに来場した高校生をターゲットにデパ地下マップを作成した。

デパ地下マップの作成にあたって、7月に調査して8月のオープンキャンパスで発表するという余裕のない日程であったために、発表期日に合わせてスケジューリングをし、計画的に取り組んだ。作成にあたっては各個人が調査で得た知識をまとめたものを提出させた。そのとりまとめは生鮮・総菜・菓子ゾーンに分かれ担当を決めて行った。担当を決めることにより、責任感を持って取り組むことが出来た。

取りまとめをしていく上でさらに追加して必要な調査項目や写真があり、8月4日に再度の調査を行った。実際の商品を購入して写真を撮影し、試食することで理解を深めていった。

また、食品売り場だけでなく催事場の調査を行った。夏休みで家族向けのイベントの「ダンボール水族館」を開催しており、催事によって集客していることやお客が家族で楽しんでいることを知ることができた。

#### (5) オープンキャンパスでの発表

デパ地下マップの作成を踏まえて、8月10日・11日にオープンキャンパスの学生プレゼンテーションで「マネジメントでデパ地下の秘密を探る」をテーマに発表を行った。プレゼンテーションの時間は40分であり、「カワイイくるまをハンドリングする」(10日)・「グローバルマネジメントで世界を創る」(11日)と各20分ずつで発

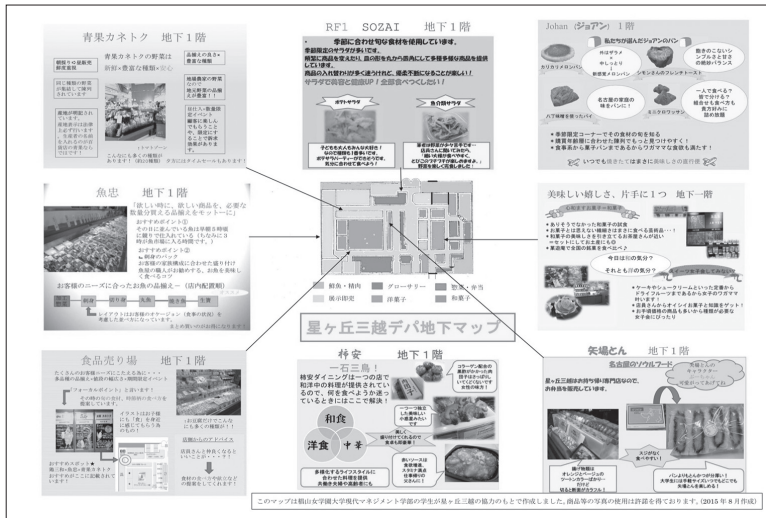


図1 2015年に作成したデパ地下マップ

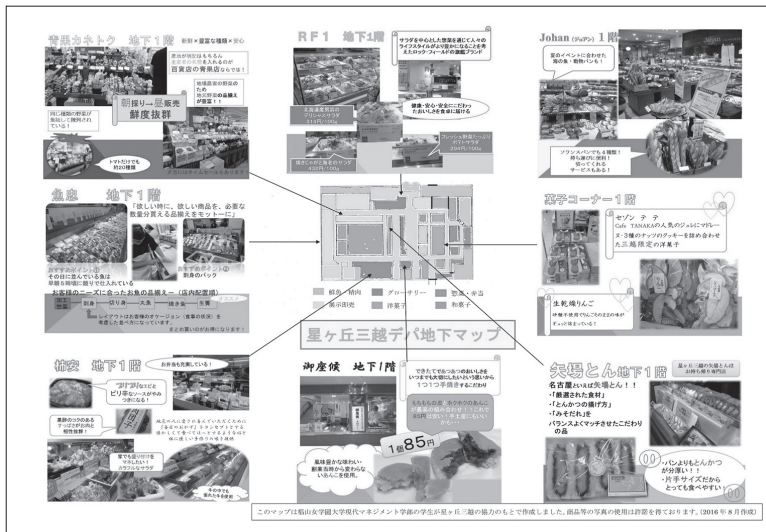


図2 2016年に作成したデパ地下マップ

表した。

学生は星ヶ丘三越で多くのことを学んだため、その内容を全て来場者に知ってもらいたいと考え、情報を多く盛り込んだパワーポイントを作成し発表したところ、来場者の反応は飽きていたような印象で、あまりうまく伝えることが出来なかった。そのため初日の発表での課題についてその日のうちにメンバー全員で反省し、何がよくなかったのかを明確にして、どのように改善すれば興味を持ってもらえるのかを徹底的に話し合った。改善点として、①一方通行の話し方を改め、聴衆が参加できるようにクイズ形式にする。②発表中は資料ばかり見るのではなく、来場者を見ながら発表する。③パワーポイントは伝えたい、大事な部分だけに絞る。ということが見付きり、

翌日は大幅に改善して発表を行った。その結果、来場者からは「見やすくわかりやすい。」「発表の雰囲気よかった。」「1年生なのによくできている。」「商品をあとで買ってみる。」等の多くの賞賛の言葉を頂くことが出来た。



オープンキャンパスでの学生プレゼンテーション（椋山女子学園広報課と筆者撮影）

## 4 | デバ地下マップ作成による社会人基礎力の育成

### (1) 社会人基礎力の定義

社会人基礎力は学生が社会に出る上で必要な能力の育成として2006年に経済産業省により提唱されたものである。具体的には図3の社会人基礎力の定義に示すように「前に踏み出す力」、「考え抜く力」、「チームで働く力」の「3つの能力」、その細分化された「12の能力要素」から構成されており<sup>5)</sup>、さらに「基礎学力」「専門知識」を加えたものと定義されている。職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力として社会人基礎力を積極的に育成していくことが大学教育に求められている。

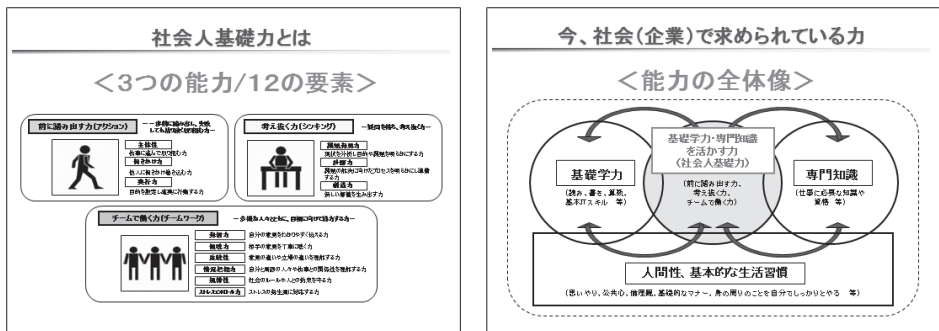


図3 社会人基礎力の定義

出典：経済産業省「社会人基礎力説明資料」

### (2) デバ地下マップ作成による社会人基礎力の育成<sup>6)</sup>

初年次教育における社会人基礎力育成として取り組んだ星ヶ丘三越の調査とデバ地下マップの作成、さらにはオープンキャンパスでの学生プレゼンテーションについて、2016年12月4日の社会人基礎力育成グランプリ（主催：社会人基礎力協議会、

共催：経済産業省）の中部地区予選大会（会場：名古屋産業大学）にて「初年次教育における社会人基礎力育成一星ヶ丘三越デパ地下マップの作成―」として発表を行った<sup>7)8)</sup>。

発表では、デパ地下マップの作成によって図4に示すような社会人基礎力の育成に取り組んだことを紹介した。デパ地下マップの作成とオープンキャンパスでの学生プレゼンテーションという目標を明確にして、期日までに完成させることで責任感を持って取り組ませ、来場者からの評価やマスコミへの掲載という成功体験により達成感を得られることでよい持続が可能となった。

具体的な各能力の育成としては、前に踏み出す力として目標を明確にして取り組んだ。2年目であったために、昨年のデパ地下マップとの差別化という課題を与え、それを達成するための方法を考えることで主体的に取り組むことができた。また、デパ地下マップの評価が高かったことで、翌年のオープンキャンパスでも是非発表したいという前向きな気持ちになり、意欲を持続させることが出来た。

考え抜く力では、学生は相手の立場に立つことが最も大切だと気づくことが出来た。1日目のプレゼンテーションでの話が長すぎる、内容が詳しくすぎるといった来場者の立場から気づいた課題を踏まえて、改善することが出来た。また、仲間同士でもお互いの立場を思いやり、早く終わった人は遅い人を助けるなど各人の能力に配慮して取り組むことが出来るようになった。7月の調査から8月のプレゼンテーションまでは短期間で、しかも試験期間を挟んだために非常に厳しいスケジュールであったが、しっかりした計画を立てることで時間を有効に活用することが出来るようになった。プレゼンテーションではイメージが浮かびやすいように実際の商品を見せながらその魅力を説明していった。また、デパ地下マップを手にする方々の気持ちになって考え、伝わりやすくするためには写真が重要だと考えた。このように創造力を働かせて、相手の立場に立って考えることで学生の視野が大きく広がった。

チームで働く力で最も大切なのは、情報交換と現状報告と考えた。「ほうれんそう」を徹底することで、仲間同士の進み具合の確認や教員や星ヶ丘三越の方とのコミュニケーションを十分に取りながら進めていった。オープンキャンパスでの反省会のように、言いにくいことであってもそれを言うことでよりよいものが創れるということを考えて、本音で意見を言い合えるようになった。

作成したデパ地下マップを広めるために大学のホームページで情報発信したところ、新聞やテレビ、雑誌に関心を持ってもらうことができた。『大學新聞』（第123号、2015年9月10日）に「星ヶ丘三越のデパ地下調査―営業戦略と接客を学ぶ―」、スターキャットケーブルテレビの情報番組『キャットステーション』の特集「大西敬子のデパ地下マップをレポート！」（2016年9月20日～25日リピート放送）、『螢雪時代』（2016年11月号）に「地元デパートを訪問・調査し、「デパ地下マップ」を作成」と紹介され、高い発信力につながった。学生が特に喜んだのは受験雑誌の『螢雪時代』で紹介されたことであった。受験生だった昨年には『螢雪時代』の読者だった学生が

今では情報を発信する立場になったこと、受験雑誌から見ても目に留まるような活動ができたという達成感を得られたことに感動し、嬉しかったとのことであった。また、地元のケーブルテレビの取材を受けたことで、質問に対して的確に答えることの難しさを学ぶことが出来た。リポーターが素早く質問することに対して的確かつ手短かにコメントするための柔軟性や情況把握力の向上になり、テレビでの体験は学生にとって大きな成長になった。

ストレスコントロールについてはポジティブシンキングが大切だと学んだ。「1年生は経験不足だが、発表はできるのか？」というストレスを「1年生だからこそ今後の活動にも良い経験になる。」とポジティブに考え直すことでよい意味でのプレッ

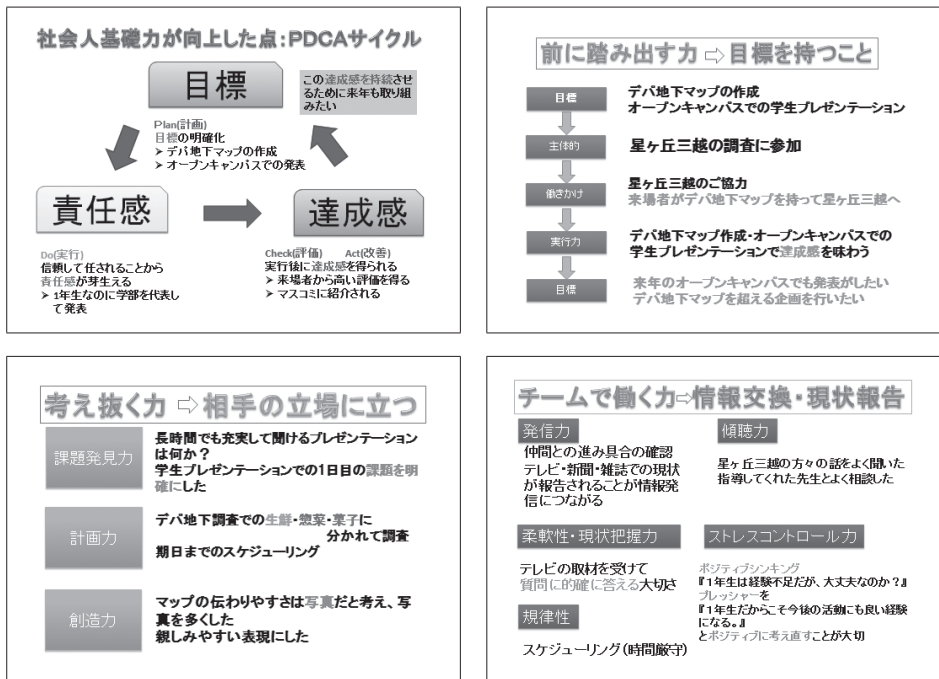


図4 デバ地下マップ作成による社会人基礎力の育成

出典：「初年次教育における社会人基礎力育成一星ヶ丘三越デバ地下マップの作成一」  
『社会人基礎力育成グランプリ中部地区予選大会』（2016年12月4日）



社会人基礎力育成グランプリ中部地区予選大会（相山女学園広報課撮影）



シャーとなるストレスに転換することができた。また、社会人基礎力育成グランプリへの出場というプレッシャーも、そのような場で発表できることこそが社会人基礎力が向上した証であるという自信に転換することが出来た。

## 5 | おわりに

星ヶ丘三越の調査とデパ地下マップの作成は2015年度にスタートし、約180人の1年生のうち、2015年度は28人、2016年度は43人の学生が参加した。参加した学生は希望者であり、授業における取組でもなかったが、多くの学生が自主的に参加している。参加しなかった学生からも、参加したかったという意見が多かった<sup>9)</sup>。

『椋山女学園大学大学案内2017』に掲載された2015年の取組に参加した学生の感想では、「特に印象に残っているのは、名古屋三越星ヶ丘店の地下食品売り場を調査し、オープンキャンパスで多くの人に向けてプレゼンテーションしたこと。先生のサポートを受けながら、プロジェクトを自分たちで最後までやり遂げることで自信が付き、以前よりも積極的になったと感じています<sup>10)</sup>。」と明確な目標を持って責任感を持って取り組むことで達成感が得られるという三つの要素を全て満たした成果を挙げており、極めて意義のある取組となっていることが示されている。

さらなる発展として調査の経験に基づいて論文を執筆した学生もいる。「日本の農業の未来—魅力ある農業の創造—」をテーマに農業の発展を考える『クミアイ化学工業第4回学生懸賞論文』における優秀賞受賞「食料自給率向上のための農産物輸出促進策—リトルキョートと新嘗祭による和食と食材の普及—」では、星ヶ丘三越の調査で学んだ日本の農産物の優れた品質や安全性、効果的な販売方法<sup>11)</sup>に基づいて海外で十分に競争力を有するものであることを示し、食料自給率を高めるためには規模の経済性の追求のための輸出促進が不可欠であり、輸出振興策として和食と食材の普及の拠点となるリトルキョートを世界各地に整備することで日本食を伝えるイベントである新嘗祭の開催を提案している。論文は農産物の輸出額が増加する中でより一層の海外展開の方策を具体的に提言したことで今後の農業の成長の可能性を示したものとして高く評価された。また、中日新聞にて「農産物輸出 キョート活用 椋山女学園大・熊沢さん 懸賞論文で優秀賞」(2016年4月8日)と紹介された。

筆者は「大学では学生が主役である。」と考えており、学生が主体的に意欲的に取り組むことでよい発展が出来たことは高く評価できる。但し、多くの学生が参加し、参加した学生はよい成長をしているといっても、参加した学生はもともと意欲のある学生であり、一方で参加しない学生の方が多く、そのような学生に意欲的に取り組ませることが初年次教育の大きな課題であることから、今後はさらに多くの学生の興味関心が高められるような取組への発展が求められる。

## 参考文献

- 旺文社（2016）「地元デパートを訪問・調査し、「デパ地下マップ」を作成」『螢雪時代』2016年11月号
- 熊澤有里（2016）「食料自給率向上のための農産物輸出促進策—リトルキョートと新嘗祭による和食と食材の普及—」『クミアイ化学工業第4回学生懸賞論文』優秀賞受賞
- 椋山女学園大学（2016）『椋山女学園大学大学案内2017』
- 大学新聞社（2015）「星ヶ丘三越のデパ地下調査—営業戦略と接客を学ぶ—」『大學新聞』第123号 2015年9月10日15面
- 中日新聞社（2016）「農産物輸出 キョート活用 椋山女学園大・熊沢さん 懸賞論文で優秀賞」『中日新聞』2016年4月8日朝刊16面
- 水野英雄（2014）「主体的な学びの大学教育—間違いのない大学選びを—」『中部経済新聞』2014年7月22日6面
- 柳澤さおり・音成陽子・福沢健（2013）「社会人基礎力の育成方法と課題—社会人基礎力育成グランプリ2012大賞（経済産業大臣賞）受賞チームの指導教員へのインタビューから—」『流通科学研究』第12巻第2号、中村学園大学

## 発表

- 水野英雄・長谷川陽菜・渡邊彩加（2016）「初年次教育における社会人基礎力育成—星ヶ丘三越デパ地下マップの作成—」『社会人基礎力育成グランプリ中部地区予選大会』2016年12月4日
- 水野英雄・熊澤有里・福田未来・姚心洋（2016）「産学・高大連携による金融経済教育—エコジョが教えるお金と人生の話—」『社会人基礎力育成グランプリ中部地区予選大会』2016年12月4日

## テレビ

- スターキャットケーブルテレビ『キャットステーション』「大西敬子のデパ地下マップをレポート！」（2016年9月20日～25日リピート放送）

## ホームページ

経済産業省 社会人基礎力 <http://www.meti.go.jp/policy/kisoryoku/>

社会人基礎力協議会 社会人基礎力育成グランプリ <https://www.mda.ne.jp/kisoryoku/>

- 注 | 1) 本取組では星ヶ丘三越の見学をさせて頂き、店舗の皆様から詳しく説明を伺うことができました。星ヶ丘三越の皆様にはご協力頂きましたことに厚くお礼申し上げます。
- 2) 「学力逡減の法則」については水野英雄「主体的な学びの大学教育—間違いのない大学選びを—」『中部経済新聞』2014年7月22日を参照。

- 3) 『椋山女学園大学大学案内2017』88ページの「学びの特色」に基づいている。
- 4) 別のテーマとしては女子大学であることから学生が興味を持ちやすい化粧品についても考えた。
- 5) 社会人基礎力の3つの能力と12の能力要素は「前に踏み出す力（アクション）」：主体性、働きかけ力、実行力、「考え抜く力（シンキング）」：課題発見力、計画力、創造力、「チームで働く力（チームワーク）」：発信力、傾聴力、柔軟性、状況把握力、規律性、ストレスコントロール力、に分類されている。
- 6) 本節は2016年12月4日の社会人基礎力育成グランプリ中部地区予選大会における水野英雄・長谷川陽菜・渡邊彩加「初年次教育における社会人基礎力育成—星ヶ丘三越デパ地下マップの作成—」の発表内容に基づいている。
- 7) 各大学では様々な社会人基礎力育成の取組が行われており、その成果を競う社会人基礎力育成グランプリでは学生と教員による発表が行われる。受賞チームは達成度の高い内容となっており、工夫された体験型学習の意義や効果が理解できる。詳しくは柳澤さおり・音成陽子・福沢健（2013）「社会人基礎力の育成方法と課題—社会人基礎力育成グランプリ2012大賞（経済産業大臣賞）受賞チームの指導教員へのインタビューから—」他を参照。
- 8) 2016年12月4日の社会人基礎力育成グランプリ中部地区予選大会には椋山女学園大学現代マネジメント学部からは水野英雄・熊澤有里・福田未来・姚心洋「産学・高次連携による金融経済教育—エコジョが教えるお金と人生の話—」も出場しており、SMBCコンシューマーファイナンス株式会社との金融経済教育の推進のための取組として2016年11月11日に愛知県立南陽高等学校で交流授業を実施したことを発表した。
- 9) 同時期にレクス高岳店・名古屋トヨペット千種内山店の見学も実施しており、両方とも参加したいという希望者が多かったが、どちらか一方のみ参加にした。
- 10) 『椋山女学園大学大学案内2017』90ページより引用。
- 11) 野菜売り場ではお客のこだわりに合わせて全国各地から取り寄せることで種類の多さと無駄のない仕入れを行っている。

**水野 英雄** (みずの ひでお)

1968年 名古屋市生まれ

所 属・現 職 椋山女学園大学現代マネジメント学部現代マネジメント学科・准教授

最終学歴・学位 名古屋大学大学院経済学研究科博士課程後期課程退学・経済学修士 (横浜国立大学)

所 属 学 会 日本経済学会, 日本経済政策学会, 日本国際経済学会, 経済教育学会 など

専 攻 領 域 国際経済学 (貿易政策), 経済政策, 経済教育

主 要 業 績 「グローバル教育としての経済教育の展開—グローバル経済の理解と持続可能な国際社会の形成—」 [単著] (『グローバル教育』第16号, 2014年)

「女子大学ビジネス系学部学生の経済分野に関する意識と経済教育—椋山女学園大学現代マネジメント学部の場合—」 [単著] (『経済教育』第33号, 2014年)

「中部地域の観光産業における名古屋港の役割—クルーズ客船による経済波及効果—」 [単著] (『港湾研究』第36号, 2015年)

「日本へのクルーズ客船の寄港とカボタージュ規制」 [単著] (『海事交通研究』第65集, 2016年) など

第1回経済教育学会賞 (教育実践部門) (2013年受賞)